

令和3年度 宮城県水産高等学校 『志教育』実践例

1 はじめに

本校は校訓及び教育目標を柱とし、『志教育』の目標を定めている。

『志教育』の目標

- (1)基本的な生活習慣の定着
- (2)基礎的・基本的知識及び技術の習得,基礎学力の向上
- (3)地域復興や社会貢献できる人材育成

指導については,生徒の性格,家庭環境等も含め実態を把握し,地域状況も踏まえながら保護者,地域の願い,教員の思いも十分考慮し行うこととしている。

『人とのかかわり』,『良き人生を求める』,『社会に貢献する』というキーワードを常に意識させながら実践している。

2 活動概要(実践例①)

目 的 ○地域住民の方々と積極的にかかわることで,より主体的に学びに向かう力を育み,自己実現につなげ,社会人となり地域の一員としての責任をはたすことを目的とする。

概 要 ○本校生徒が地元の食材を使用したレシピを作成し,その料理をとおして地域住民とともに作る機会や提供する機会をつくる。高校生が地域理解を深め,関わりを持つことにより地元愛が深まり社会参加の意識を芽生えさせることができる。また高校生と地域住民が関わることで,高校生が地域全体に活気を生み出し,地域住民の心を元気にすることもできる。

場 所 ○石巻市桃浦地区

牡鹿半島の桃浦地区は東日本大震災により甚大な被害に遭い 65 軒あった集落のほとんどが倒壊・流失の被害を受け,住民の方は先祖伝来の土地を離れざるを得ない状況となってしまった。現在桃浦地区に残っているのは高台移転した数件とそして辛うじて津波を免れた 4 軒と住職が自力再建をした洞仙寺と 10 件にも満たない地区になっている。



まずは地域を理解するために 洞仙寺の住職や地区長さんから歴史的なことを学習し,大切なものを発見・発掘する。





地域住民への聞き取り調査報告



地元の食材を使った料理試作



住民の方との交流会

地元の旬の食材をつかって料理を作成し、地域住民の方々と交流の場で一緒に食事をした。裏山に薪を採りに行き、実際に薪を割って火をおこして、地元の漁師さんからは漬物や貝の差し入れを頂いたりした。

3 活動概要(実践例②)

目的 ○石巻の海の食材の利用価値を再提案して、仙台うみの杜水族館の協力により調理販売を目的とする。したがって、学校教育の中で、社会に出た際自立するために必要な職業人としての能力を身に付けることができる。

概要 ○本校卒業と同時に調理師免許が取得できるという調理類型クラスのメンバーが、各自がそれぞれ地元の食材をアピールするオリジナルメニューを考え、試作まで担当し、仙台うみの杜水族館のフードコートで販売した。

場所 ○仙台うみの杜水族館及び本校調理実習室

メニュー開発から販売までの一連の工程を体験できる機会を頂き、高校生にはなかなか出来な

いない貴重をすることが出来た。また、地元の食材探求や商品開発まで深く関わって、とても充実した内容となった。

さらに、今回のコラボを通じて地元石巻の海の食材や魅力を多くの人に知ってもらうこともできた。現在は海の魅力や海辺に暮らしについて全てを知ることは難しい時代となってしまったが、今後はたくさん知ってもらえるように、料理で石巻の海を、三陸の海の魅力を伝えることが出来る社会人になってほしい。震災から 11 年経った今も立ち直れていない人もいるなかで、海の魅力を再確認することができた。



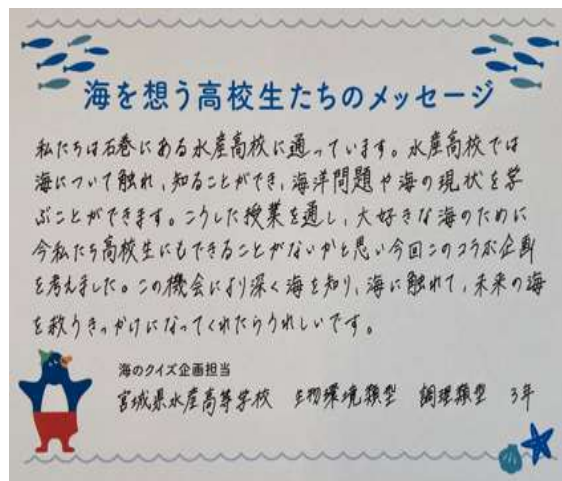
うみの杜水族館の関係者との打ち合わせ



実際に販売したメニュー



販売会 風景



調理類型生徒の思い